



理 念

働く人と地域のために

患者中心の最善の医療を実施します

Contents

新年の挨拶

院 長	佐藤 譲	1
副院長	石丸 正寛	1
副院長	岡崎 裕司	1
副院長	並木 淳郎	2
副院長	香川 秀之	2
看護部長	山口千恵美	2

切断指再接着・手の外科センター	3
-----------------	---



新年のご挨拶

病院長 佐藤 譲

新年あけましておめでとうございます。日頃は当院の診療運営面で多大なご支援、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。当院は労災病院として政策医療である がん・糖尿病・脳卒中リハビリテーションにおける治療就労両立支援を実践する一方、川崎市南部2次医療圏の地域中核病院としての役割を果たすべく、日々頑張っております。今後、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、我が国の医療情勢は大きく変化していくと考えられます。病院には「病床機能」の役割を明確化することが求められ、他方クリニックの先生方には「主治医機能」を果たすことが強く求められると予想されます。また在宅医療に関して病院の勤務医とクリニックの先生方との間で更なる強い連携が必要とされることが考えられます。当院はこれまでと同様、急性期医療に力を注ぐ一方ご高齢の方には日常生活を全うして頂く支え寄り添う医療を模索して参ります。当院は職員が一丸となり、安心安全な医療を提供し、ランドマーク病院として地域の方々から信頼される病院を目指して病院づくりをしております。今年一年間、皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



国の地域がん診療連携拠点病院の指定を目指して

副院長・医療安全管理責任者・がん診療管理委員長 石丸 正 寛

新年あけましておめでとうございます。日常の診療で当院をご支援いただき大変ありがとうございます。

昨年の年頭のごあいさつで当院が国の定める「地域がん診療連携拠点病院」の取得を目指すことを述べましたが、院内のがん診療の体制を一層強化し、川崎市・神奈川県のご協力を得て当院を「地域がん診療連携拠点病院」に推薦していただけることとなりました。恐らく今年の3月頃に決定すると思います。よい知らせを皆様にお届けできればと思っています。

また上記に関連して、昨年4月より肝胆膵領域を専門とする外科医を2名当院に迎え、肝胆膵領域の外科手術が以前の数倍に増えました。さらにゴールデンウィーク明けからプレストセンターを立ち上げ乳癌手術総数は従来の1.5倍に増えました。本年は外科手術をますます増やしていけたらと思っています。

昨年10月から施行された医療事故調査制度に関して、当院ではその施行前から院長を筆頭にその体制づくりに努めてまいりました。皆様に安全な医療を提供するという、当院の基本方針に則りさらに院内の医療安全体制の強化に努めてまいりたいと思います。どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

副院長・整形外科統括部長 地域医療連携室長・感染症治療管理部長 岡崎 裕 司

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。旧年も当院の診療、運営面におきまして過分なご厚情ご支援を頂き、心より厚く御礼申し上げます。当院地域医療連携室の調べでは外来診療においてクリニックの先生方との間でご紹介率は80%を越え、逆紹介も70%に迫る強力な連携実績をあげることができました。本年はさらに緊密な連携を目指してまいりたく存じ上げます。室長としてここに重ねて御礼、お願い申し上げます。

地域に根ざした急性期医療を推進するためには、重症度の高い患者を数多く受け入れ、回復期、維持期とシームレスな治療継続体制が必要となります。そのようなニーズに対応すべく当院では入院前の外来から一貫して患者さんの術前、入院管理を行い、治療の安全性の向上を目的に「入院サポートセンター」サービスを展開、拡大中です。このセンターは退院後の地域生活にも密着した指導、支援が行えることが最終目標です。地域のランドマーク病院として皆様から信頼される医療を病院一丸となって目指しております。最後になりましたが皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



新年の御挨拶

副院長・循環器内科部長 並木 淳郎

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、当院の診療および運営に対しご支援・ご協力をいただき厚く感謝申し上げます。

当院は昨年もこれまでと同様に、地域と働く人の急性期医療を担う病院として診療にあたっていました。特に昨年4月からは、救急総合診療科に5人の中堅・若手医師が新たに加わったことで、時間内救急搬送患者およびICU、HCUの診療体制を強化することができました。さらに昨年は、これまで通りの夜間、休日および時間外における「断らない救急」への取り組みとの相乗効果で、6000台を超える救急搬送患者を受け入れることができました。また、災害医療拠点病院でもある当院では、昨年も年間を通して1～2か月に1回のペースで災害訓練を実施いたしました。昨年9月1日には首都直下型地震を想定した「平成27年度政府広域医療搬送訓練」にも、消防局、自衛隊および他地域のDMATとともに参加し、災害時に備えた病院機能の強化を図っていました。その直後に発災した「平成27年関東・東北豪雨」では当院のDMATも出動し、実際に被災地での災害医療援助にあたることで、災害医療拠点病院としての責務を果たすことができました。

当院は本年も昨年同様に、様々な分野での病院機能のさらなる強化を図り、「地域のランドマーク病院」として皆様方に信頼される病院を目指し、職員一丸となって努力してまいります。つきましては、本年も引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も、何卒よろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

副院長・産婦人科部長 香川 秀之

新年あけましておめでとうございます。昨年はこの紙面をお借りして、当院産婦人科における分娩制限のお知らせをさせていただきましたが、地域の先生方のご理解とご協力により、1年間大過なく周産期医療を実践していくことができました。どうもありがとうございました。日本全体としては、少子化対策が喫緊の課題とされるほど出生数は減少していますが、当院周辺地域における周産期医療ニーズの増加はまだまだ続くことが予想され、産婦人科医、小児科医、助産師をはじめとした周産期医療を担当する人員の確保が困難な状況はまだ続いております。そのような中、昨年秋にテレビ放映された周産期医療を描いたドラマ「コウノドリ」は、リアルなテーマと描写が話題になり、改めて自分たちがやっている仕事の尊さ、妊娠、出産という奇跡の現場に携わることの大切さを感じることができたと、臨床現場に従事する人々の評価も非常に高いものでした。このドラマを見て、周産期医療を志す人が少しでも増えてくれることを期待しています。皆様、今年もどうぞよろしくお願い致します。



新年のご挨拶

看護部長 山口 千恵美

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。看護部は、「患者中心のチーム医療」を推進すると共に、急性期医療に対応でき看護に専念できる看護体制の整備と人材育成に努めています。専門看護師（精神看護）1名、認定看護師は12分野19名となり、糖尿病療養指導士等を含めリソースナースが組織横断的に活動しています。特に、がん看護の充実として、専従のがん相談看護師に加え緩和ケア認定看護師の専従や緩和ケアのリンクナースの育成を開始しました。また、昨年2月にスタートした入院サポートセンター（入院準備として外来の段階からアプローチ）を通る対象患者さんの拡大を図っています。

平成28年度の準備としては、年々増加する救急患者への対応を充実させるべく「救急室の整備・充実プロジェクト」で検討を開始しています。4月には診療報酬の改定、11月には病院機能評価3rdG受審を控えていますので、変化の大きな年度になりそうですが、多職種と共に連携・協働しながらチャレンジしていきたいと思っています。引き続き地域の皆様の期待に応えられる質の高い看護が提供できるように努めていきたいと思っています。今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。

切断指再接着・手の外科センター

小林 康一 深澤 克康

切断指再接着・手の外科センター

平成27年11月より「切断指再接着・手の外科センター」を開設いたしました。

整形外科 小林・深澤の手外科専門医2名体制で、切断指などの救急の外傷は24時間365日対応を行っています。

切断指再接着

世界最初の切断指再接着は、ほぼ半世紀前に日本で始まりましたが、切断指再接着の可能な病院は少なく、必ずしもご本人の希望が反映されない治療がされているのが現実です。切断指再接着は、「鋭的切断でないから」とか「指尖部だから」できないということはありません。手外科学会認定基幹研修施設の当院には、多様な切断指再接着に対応できる手外科専門医が2名おり、世界最高倍率の手術顕微鏡（三鷹光器MM50：倍率50倍。通常の手術用顕微鏡倍率は20倍です。）を備え、血管径0.3mmくらいまで縫合可能です。

再建手術

切断指の損傷がひどい、または血管がなくて再接着できない場合でも希望により再建手術が可能です。

当院では「1/2母趾爪皮弁」という足趾欠損や機能障害の少ない方法で「指を造っています」。術後、サンダルで街歩きができます。

外来診療

切断指などの救急の外傷は24時間365日小林・深澤が急患室で対応していますが、下記の診療実績のような手の疾患は、整形外科の外来で、月曜日に小林が、木曜日・金曜日は深澤が担当しております。それ以外の曜日は、病院にご連絡ください。外来を受診される場合は、紹介状をお持ちください。

診療実績 2014年手術件数

骨折・脱臼・靱帯損傷の手術	224
末梢神経の手術	38
炎症性疾患の手術	44
腱損傷の手術	40
腫瘍性疾患の手術	10
マイクロサージャリー（再接着・血管縫合・神経縫合）	30
その他	36
合計	423（件）